中年層以降のユーザにとって利用の敷居が低い地域回遊アプリの検討

福知山公立大学情報学部　32045005　新木大地
指導教員　山本吉伸

１．はじめに

地域回遊型イベントでは年齢層が幅広く中年層以降の参加者も多い。しかしイベントで利用されている地域回遊アプリはデータの蓄積や分析を前提に開発されるということが一般的ではなく、幅広い年齢層の参加者に使いやすいように継続的な改良がされているとは言い難い。今後も継続的な改良を加えることを前提にデータの蓄積を可能とした、中年層以降の参加者でも利用しやすい地域回遊アプリの検討は課題である。

２．先行事例

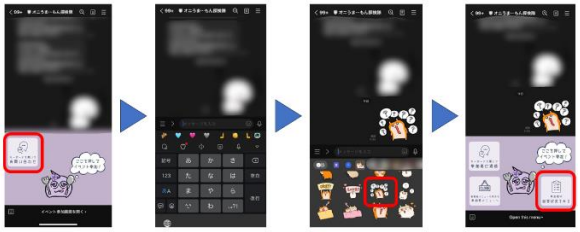
東京と奈良の地域回遊型イベントについての先行事例として挙げる。これらの研究からイベントを継続的に実施することの重要性が指摘されていることと、中年層以降の幅広い年齢層がイベントに参加している傾向があることを確認した。

３．必要とされる機能の仕様

中年層以降の参加者にとって敷居となりうる要因を避けるために必要な機能を検討する。ここでは特に、参加者が少ない手順で即日利用でき、新しくアプリのダウンロード等が不要、管理者と相互にコミュニケーションが可能である、などの機能を必要だと判断した。

４．本システムの機能と実装

前項の内容を受けて、LINE 内のブラウザで実行できる地域回遊アプリを実装した（図１）。



（図１　参加者画面と管理画面の切り替え）

LINE bot を友達追加してリッチメニューを押すという少ない手順でイベントにエントリー可能であり、管理者も同様の画面から操作が可能となっている。

５．「食 with ラリー 福知山」の概要

これらの機能を実装したシステムが実用的に利用できることを確認するため、本研究では、福知山美味しいもん探検隊実行委員会主催「食 with ラリー福知山」という京都府福知山で実際に行われた地域回遊型イベントにて、それらを実装したシステムを導入した。

６．イベントの結果と分析

イベント結果を分析し、各賞の参加者数や完全回答率などについてまとめ、考察した。写真投稿を必要とするそれ以外の各賞を合わせた回答率の間に有意な差があるとはいえないということや、協賛店舗が散在していることが参加率などに影響しうること、一部の賞において出題内容が改善されていることなど、注目に値する結果が得られた。

７．アンケートの分析

イベント終了後のアンケートからシステムの評価を行った。

8.　考察とまとめ

本研究で開発した地域回遊アプリが実用的に利用できることを確認した。参加者の大部分が操作にあまり難しさを感じていないことが明らかになった。今後もデータを蓄積し分析を続けることで、まだ明らかになっていない中年層以降の参加者にとっての敷居となりうる要因を解明し、継続的な改良を行っていきたい。

参考文献

[1] 森木 俊臣, 佐藤 弘起, 牧 秀行, 薦田 憲久：地域限定クーポンの利用履歴による社会関係資本の多寡推定, 情報処理学会論文誌　デジタルプラクティス　Vol.3 No.2 59-68, 2022.4

[2] 清水裕子, 中山　徹：継続的な商店街活性化イベントのあり方に関する研究-あるく奈良まちなかバルを事例として, 日本建築学会技術報告集　第 20 巻　第 44 号, 285-290, 2014.2